

キャリア支援を考える 8 : 美術と生活・職業のデザイン

Kawakita, Takashi / 川喜多, 喬

(出版者 / Publisher)

教育新聞社

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

教育新聞 / 教育新聞

(号 / Number)

2570

(開始ページ / Start Page)

3

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

2005-09

キャリア支援を考える

法政大学にキャリアデザイン学部をつくった時、いくつもの誤解と攻撃を受けた。誤解の一つはアーチスト、デザイナー志望の高校生を入れたいというも。しかし「世の中は誤解によるのみ動いている」(ポードレール)のかもしれない。誤解はときに生産的である。美術の世界のデザインと、生活、職業のデザインとどこが違うのか。私が深く考え込むきっかけになったのが、このありがたい世間の誤解であった。

観・機能を示す図絵の意になった。素描、下絵という意味が出るのは比較的新しい。素描、下絵なしにいきなり傑作を書ける天才的アーチストは例外だろう。いや、高い評価を受けるアーチストですらデッサンには力を入れるのが普通。そしてデッサンは最終作品と違い、何枚も何十枚も棄ててまた描かれるのが普通である。

「サイン」という言葉は signum (印) を語幹とするラテン語からイタリア語、フランス語、さらに17世紀に英語へ。当初は計画とか規定の意で、17世紀半ばからあるものの外

なものである。「仮説は建築の前にくみあげられる足場である。建築物ができあがったら取りはらうのだ。足場は作業者にとってなくてはならぬのだが、足場を建物と思いこんでい」とゲーテは言っている(箴言と省察)。キャリアデザインを教室内の机上で描くのは「タフな世界の夢の入り」として、それと「引きこもる」になるかもしれない。夢を現実の訓練にかけ、修正し、時には棄てる、この賽の河原の人生を教えることが、いまや私のように現実にしらけた凡俗の教師の仕事になった。

美術と生活・職業のデザイン

デサインという言葉は signum (印) を語幹とするラテン語からイタリア語、フランス語、さらに17世紀に英語へ。当初は計画とか規定の意で、17世紀半ばからあるものの外

なものである。「仮説は建築の前にくみあげられる足場である。建築物ができあがったら取りはらうのだ。足場は作業者にとってなくてはならぬのだが、足場を建物と思いこんでい」とゲーテは言っている(箴言と省察)。キャリアデザインを教室内の机上で描くのは「タフな世界の夢の入り」として、それと「引きこもる」になるかもしれない。夢を現実の訓練にかけ、修正し、時には棄てる、この賽の河原の人生を教えることが、いまや私のように現実にしらけた凡俗の教師の仕事になった。

法政大学キャリアデザイン学部教授 川喜多 喬

かかるといふものだ。キャリアの目標をまず細部まで明確に定めよ(大学一年生程度の知識で?)、それなしには何も始まらないという議論に私が首をかしげるゆえんである。某大学のキャリアデザイン論で講師が夢を大切にしろ、夢は必ずかなう、夢を目標に計画を書けと説教していた。夢はなるほど大切だが、夢は必ずしもかなわない。「コンピエーヌの机上で描くのはタフな世界の夢の入り」として、それと「引きこもる」になるかもしれない。夢を現実の訓練にかけ、修正し、時には棄てる、この賽の河原の人生を教えることが、いまや私のように現実にしらけた凡俗の教師の仕事になった。